

令和2年産 美里地区の大豆情報

大豆パワー!!



第3号 令和2年10月20日

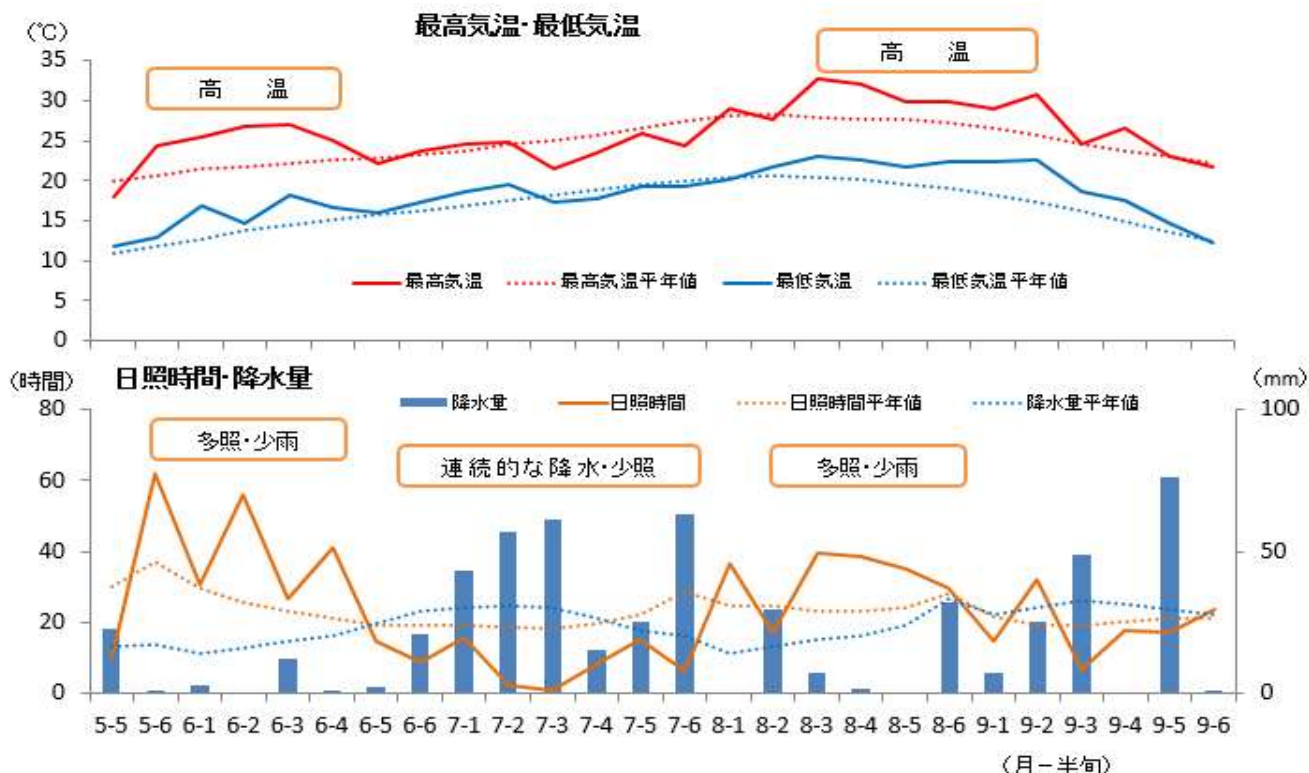
宮城県美里農業改良普及センター

TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

1 気象経過及び生育状況



【本年産大豆の生育の特徴】

【標播】

- ・6月中旬播種の一部で過乾燥により出芽揃いが悪かったが、全般的には出芽・初期生育は良好。6月第6半旬～7月第6半旬にかけ連続的な降雨・日照不足となり、初期生育の善し悪しに関わらず、全般的に湿害・生育停滞傾向となった。
- ・連続的な降雨の影響で管理・除草作業が遅れ、残草が多くなった。
- ・8月は高温多照となり、排水性の良いほ場や大豆生育量の大きいほ場では大幅な生育回復となった。中耕培土が未実施のほ場や湿害により著しい生育停滞のほ場では、生育回復が遅れる（生育量不足）傾向となった。
- ・タチナガハでは10月上旬から、ミヤギシロメでは中旬から葉の黄化・落葉が見られる。

【麦後晩播】

- ・7月の降水で播種が8月までずれ込んだほ場があり、一部で播種断念もあった。8月の高温多照により生育は回復傾向となったが、7月上～中旬播種は播種直後からの連続的な湿害条件であり、7月下旬以降播種は栄養成長期間が短く、生育量不足の傾向。
- ・主茎長は短いが莢付きは比較的良好であり、10月中旬から葉の黄化が見られる。

2 今後の管理

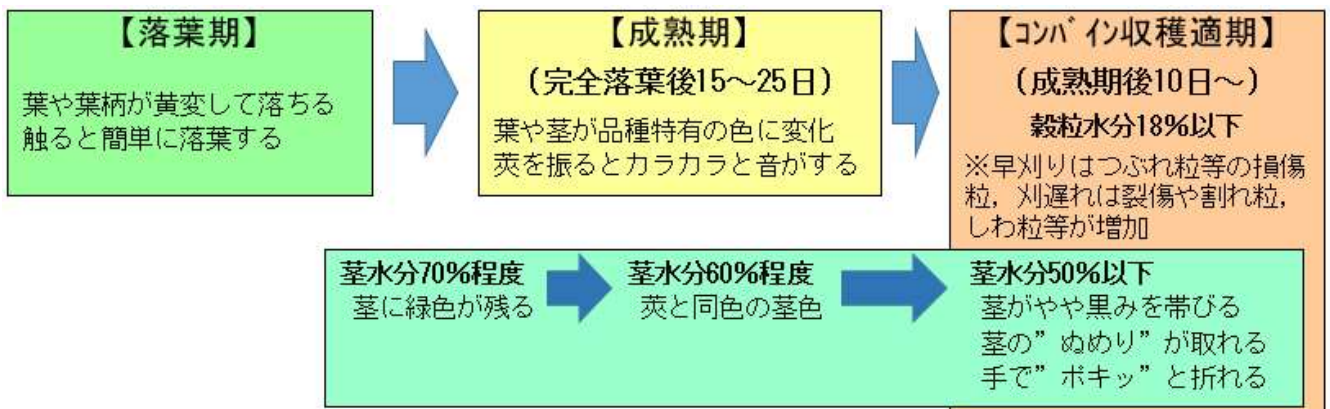
(1) 排水対策 急な大雨に備えましょう

- ・近年、大雨等の気象災害が多くなっています。雨後でも一日でも早くほ場に入って作業ができるように、排水溝や明きよの点検・整備を実施しておきましょう。

(2) 雑草抜き取り 汚粒発生防止のため収穫前にほ場をきれいにしましょう

- ・本年は、天候不順により生育期間中の雑草防除が後手に回ったため、残草が多い傾向となっています。茎水分が高く、収穫時の汚粒発生の原因となり易い、アメリカセンダングサやタデ類、シロザ、イヌホオズキ等の雑草は刈り取りまでに抜き取っておきましょう。
- ・抜き取り作業をしなかったり、実施しても時期が遅い場合は、雑草が成熟して多くの種子をほ場に落としてしまいます。雑草の成熟状況も勘案して作業計画を立てましょう。
- ・大豆の青立ち株も汚粒の原因となります。特に、莢数が著しく少なく、葉や茎が緑色のままの青立ち株は、収穫時期までに茎水分が低下しないので必ず抜き取りましょう。
- ・抜き取りした雑草は、種子を落とした可能性が大きいので、雑草の種類をほ場ごとにメモしておき、次の大豆作の雑草防除に役立てましょう。

(3) 収穫時期の判定 葉の黄化や落葉時期等を観察して収穫時期を計画しましょう



(4) 収穫作業 穀粒損失や損傷・汚粒発生による収量・品質低下を防ぎましょう

- ・大豆では収穫時の穀粒損失が大きな減収要因となる場合があります。作業開始時や休憩時に収穫状況を確認しましょう。
 - 刈残しロス : 刈取高さを調整
 - 頭部損失(ヘッドロス) : リールの位置・速度と作業速度の調整
 - 後部(排出)ロス : こき胴の処理能力と作業速度の調整
- ・収穫時の穀粒水分が高いとつぶれ粒が、低いと裂傷や割れ豆が増加します。
収穫時の穀粒水分(15~18%)を確認(子実に爪を立てると少し痕が残る)
- ・汚粒発生による品質低下を防ぎましょう。
 - 土の掻き込み : 刈取高さは約10cmに調整, 安定した収穫のできる運転技術
 - 雑草や大豆の青立ち株 : 前日までに抜き取りを終了
 - コンバイン内部の汚れ : 収穫前後に掃除, 土掻き込み時の速やかな作業停止・掃除
 - 収穫時刻 : 茎や莢が乾いている時間帯(11時から16時)に収穫

◇◇◇秋の農作業安全確認運動実施中(9月1日~10月31日)◇◇◇
令和2年度テーマ 「見直そう! 農業機械作業の安全対策」